

和

伝

古くから鹿児島に根ざし受け継がれてきた「かごしまの伝統野菜」。わたしたちの健康と、郷土の食文化を支えてきました。

その数、なんと20品目以上。土地名や鹿児島方言が名付けられたものも多く見られ、その土地や人々に馴染みのある存在であることが伺えます。

ちなみに、次の6つの地名「横川・開聞岳・国分・山川・有良・桜島」すべて大根の名前につけられています。

特色のある大根ばかりで、見た目や味、食感などさまざま！
見かけた際は、食べ比べをしてみてください！



古き良き、かな♪

「和食」のユネスコ無形文化遺産への登録決定を受け、『和』の魅力が目まぐるしく増えています。そんな『和』の環境に優しい一面、ご存知ですか？
今回の特集では、今こそ再発見！その魅力に迫ります。

包

「和」に「包」といえば、唐草模様で、おばあちゃんを持つていたり、泥棒が戦利品を包んでいたりと？
そう、風呂敷です！昭和後半までは一般的に使用されていましたが、最近ではその姿を見かけることも少なくなりました。

ところがそんな風呂敷が、今注目の的！おしゃれな風呂敷を販売する専門店も登場。
様々な形のものを包むことができ、たたむととってもコンパクト。
お買いものにお供に持っていけば、便利なうえにエコにもつながります。あなたも風呂敷でおしゃれにエコを！



染

しぶい渋柿、ではなく、柿渋。みなさんご存じですか？
柿渋は、渋柿の果実から得られる液体で、染色力・防水力・防菌力・防腐力・耐久力：色々な力を持っています。

平安時代の暮らしの中すでに衣類の染料として用いられ、また、防水力を活かしてうちわや傘の材料としても使われてきた柿渋。写真は、着古したTシャツを染色した様子。手持ちの布をプラスしてエプロンドレスに仕上げました。日本古来の方法で、かわいくリユースです！



暖

暖をとるための日本の知恵をご紹介します。
今から冬を先取りです！
お湯のほんわかした温かさが魅力の湯たんぽ。昔ながらの金属製やゴム製のものも渋いし、今は様々なデザインのものもあります。
そして、一押しはペットボトル湯たんぽ！空のペットボトルにお湯を入れて、タオルを巻けばできあがり。就寝する少し前に布団の中に入れておくと、温まって気持ちよく眠りにつくことができます。

湯たんぽの中のお湯は翌朝もまだ温かいので、顔を洗う時に利用すると節水にもなりますよ！



すゝめ

「食」のみならず、さまざまな場面に息づく和の伝統の数々。環境にやさしく、私たちの暮らしにほんのちよつとぬくもりを生み出してくれる昔ながらの知恵。古き良き「和」を取り入れて、日々の暮らしを大切に、丁寧に過ごしていきたいですね。